

【災害は、忘れたころに… 今は、忘れる前にやってくる】

15日(水)に計画しています「引き渡し訓練」への協力よろしくお願いします。昨年度は教室待機からの呼び出しでしたが、本年度は集合待機に変更しました。「これが正解！」というものがないので、よりスムーズに引き渡しができるように形を変えながら試行錯誤を繰り返します。今回、大雨を想定しての訓練ですが、ダムの緊急放流が行われれば、子どもを学校に留め置き、校舎の2階・3階への「垂直避難」をすることになります。また、本校は「洪水浸水想定区域又は土砂災害警戒区域に立地している要配慮者利用施設」となっており、有事の際には地域の要配慮者も避難してきます。6月2日(日)には、大山町の避難訓練が行われます。サイレンと放送を合図に、地区ごとに決められた場所に避難することになります。「**自分の命は自分で守る**」行動が避難です。8年生・9年生には昨年度の防災講話で「自助」「共助」の話をしています。「自分の命を守り」ながら、周りにも気を配ることを訓練で意識して欲しいと思います。実際に災害等で避難することになった場合、避難の誘導や避難行動支援、避難所運営のサポートなど、中学生は間違いなく**頼られる存在**になります。この避難訓練にはぜひ参加させてください。

昨年度の「引き渡し訓練」の様子



緑鷹会人権宣言を受けて学年部ごとに作成された昨年度の「則」を見直し、今年度版を作成しました。生徒は「則」に沿った具体的な行動目標を設定し、日常的に心がけます。月末にアンケートによる振り返りを行い、集約した結果を生徒会執行部が生徒集会の場で発表します。右の「緑鷹会人権宣言」と各学年が設定した「則」を常に意識できるように、教室や廊下の目につくところに掲示しています。

人権の尊重に係る「いじめ防止基本方針」を学校 HP に掲載していますので、ご覧ください。

緑鷹会人権宣言

1. 相手の立場にたって、いじめは絶対にしない、させない、見て見ぬふりはしません。
注意しあえる仲間、友だちを増やします。

2. 私たちは自由と平等に生きる権利があり、相手の命も自分の命も大切にします。

7年生 どんな人でも個性を尊重して、悪いところばかり見ず、良いところを探す。

8年生 周りに合わせるだけでなく、お互いを尊重し、自らが変わろうとする意識をもつ。

9年生 思いやりの気持ちをもって話し合い、行動する。

先日、NHK アナウンサーだった方の話を聞く機会がありました。とても興味深かったので内容を紹介します。

発音したことのない言葉は身につかない。発音に自信のない言葉は身につかないのと同じ。例えば、「一段落」は「いちだんらく」なのか「ひとだんらく」なのか。『読み』『意味』『用法』を確かめ、発音してみて初めて使える言葉として身につく。日常的に心がけたい効果的な方法として「新聞のコラム」がある。新聞のコラムは600字前後の内容でゆっくり読んでも2分。その中で、初めて出会う言葉や読み方が分からない言葉を1日3つ自分のものにすれば1年で1000の語彙(ボキャブラリー)が増える。新たに獲得した言葉を活用することで知識・発想・ものの見方が膨らんでいくことになる。

幸い本校では、朝学習でコラムの視写に取り組んでいます。『①時事に関心を持たせ、教養として身につけさせる。②読解力や文章構成力を向上させる。③書くスピードをあげる。』ことを主目的としたものです。そこに言葉との出会いという観点を加え、新しい言葉を自分のものにすることを意識しながら朝学習に取り組ませようと思います。